

平成17年度宮古群島病害虫発生予報第9号（12月予報）

12月の気象予報

要素別予報

要 素	気 温	降 水 量	日 照 時 間
予 報	並	並	並

(平成17年11月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平均値

要 素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	19.4	21.7	17.5	136.1	95.5

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

12月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

宮古群島

1 さとうきび

メイチュウ類の防除について

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植圃場での芯枯茎率は3.4%（前年1.9%、平年5.6%）と平年よりやや低かった。
- b 11月のカンシャノシンクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺虫数は35.3頭（前年201頭、平年263頭）と平年よりやや少なかった。
- c 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- d 中耕時には、土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

コガネムシ類幼虫（アオドウガネ・ミヤコケブカアカチャコガネ）の防除対策について

- a 一部圃場でコガネムシ類幼虫による立枯症状が見られる。
- b 製糖期には、立枯の見られる圃場から早期に収穫する。
- c 収穫後は速やかに耕耘し、幼虫密度の低下を図る。

野その防除対策について

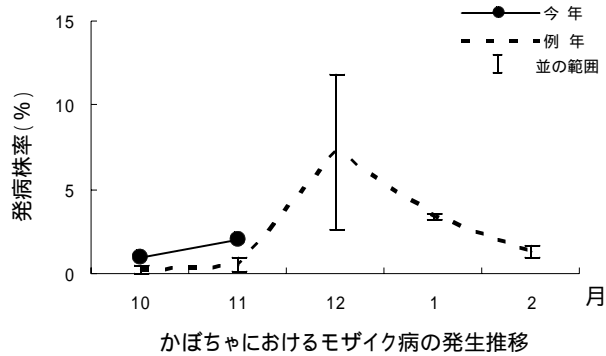
- a 11月下旬の調査の結果、例年被害茎の多い池間島における被害茎率は1.9%であった（前年同月2.1%、先月1.1%）。
- b 本年は被害茎率が低い傾向にあるが、糖度の上昇に伴って今後被害が増えることが予想される。
- c 10月中旬に航空防除が実施されたが、例年被害の多い圃場では地上防除を併用する。
- d 薬剤は、圃場全体に均等に散布する。

2 かぼちゃ

(1) モザイク病

発生程度 : やや多
予報の根拠

11月上旬の調査の結果、発病株率は2.0%（昨年0.1%、例年0.5%）と例年よりやや高かった。



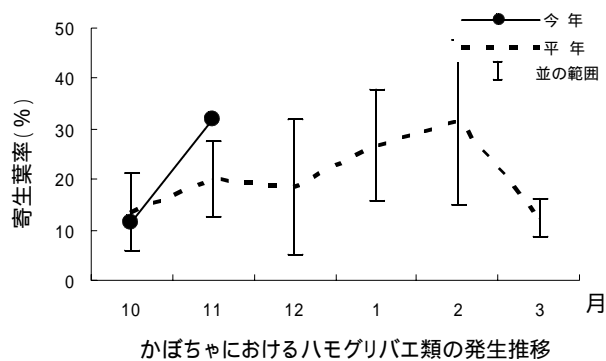
防除上注意すべき事項

- 本病の媒介虫であるアブラムシ類の飛来定着を防止するため、畝間に防風対策を兼ねたソルゴーなど障壁作物を植え付けるか、防虫ネット等の資材を利用する。
- 発病株は感染源となるため、見つけ次第抜き取り、圃場外へ持ち出し処分する。
- 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。

(2) ハモグリバエ類

発生程度 : やや多
予報の根拠

11月上旬の調査の結果、寄生葉率は32.0%（前年5.0%、平年20.0%）と平年よりやや高かった。



防除上注意すべき事項

- ハモグリバエ類は初期防除が重要である。多発してからは防除が困難になるため、早期発見に留意する。
- 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。

3 とうがん(施設)

ウイルス病の防除対策について

- a 施設周辺の雑草は、媒介虫であるアブラムシ類やアザミウマ類の発生源となるので除草を行う。
- b 近紫外線除去フィルム、シルバーポリマルチの利用、および入口、天窓、側窓には防虫ネット等を張り、媒介虫の飛来侵入を防ぐ。
- c 発病株は感染源となるので、見つけ次第抜き取り、ビニール袋等に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- d 本病は汁液伝染するので、やむを得ず発病株を残す場合には、発病株のある棟の管理作業は最後に行い、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。